

## 総合海洋政策本部参与会議自律型無人探査機（AUV）戦略プロジェクトチーム の設置及び運営について

### 1. 趣旨・目的

自律型無人探査機（AUV）は、機器本体が自律的に状況を判断して全自動で水中を航行できる自律型海中ロボットであり、1990年代後半に研究開発が開始された「うらしま」をはじめとして、多く世界をリードする研究開発が日本で行われてきている。しかしながら、その産業化においては海外に後れをとり、現在、日本国内で活用されているAUVの多くが海外製となっている。一方、海底探査技術の国際競技大会「XPRIZE」でのTeam KUROSHIOの活躍や、内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム「革新的深海資源調査技術」におけるAUV複数運用技術の開発等、日本の強みを活かした技術開発の事例が見られる。近年、AUVや遠隔操作型無人潜水機（ROV）等の実用例が国内外で増えつつあり、今後の洋上風力発電をはじめとする海域利活用における省人化や海の可視化等を可能とする高いポテンシャルがある技術として、その国産化・産業化が期待されている。

このように今後の活用が期待されるAUVについて、持続可能な海域利用と海洋産業の発展に際し、海洋立国日本として、いかにして社会実装していくかという課題に向き合い、現状の正確な把握と俯瞰的な視点からの戦略の策定を進めていく必要があり、第4期海洋基本計画の策定に向けた基本的な考え方を示した参与会議意見書（令和4年12月）にも、AUV等について早期の社会実装に向けた戦略を策定、実行していくべき旨の記載がなされている。そこで、参与会議にAUV戦略プロジェクトチーム（PT）を設置し、AUVの社会実装に向けた戦略策定に向けて、関連技術を見える化する技術マップ等を作成するとともに、官民プラットフォームの設置や環境整備等のAUVの促進方策について集中的に検討を行う。また、これら検討を踏まえて、国産化・産業化を見据えた将来ビジョンやロードマップを含むAUV戦略の素案を作成する。なお、このAUV戦略は、海洋産業全体の戦略的ビジョン策定の具体例となる。

### 2. 主な検討テーマ

本PTでは、AUV戦略の作成に向けて、AUVの特性を踏まえて国内外の現状や課題を把握するとともに、AUV戦略の主要要素である将来ビジョンやロードマップを作成する。また、AUVの社会実装に向けた促進方策（共通基盤の構築、制度環境整備、官民の連携、研究開発の推進、人材育成等）について検討する。これらの検討結果を報告書（AUV戦略素案）として取りまとめる。

### 3. PT の運営

- (1) PT の会議については、原則として非公開とする。資料及び議事概要は会議終了後速やかに公開する。ただし、主査が必要と認めるときは、資料及び議事概要の一部または全部を公開しないものとする事ができる。
- (2) PT は、それぞれの審議結果を参与会議に報告するものとする。
- (3) PT における報告書等のとりまとめは、構成員間での協議を経て、主査が行う。
- (4) 前各項に定めるもののほか、PT の運営に関し必要な事項は、構成員である参与間で協議し、それぞれの主査が定めることとする。

### 4. PT の構成員

#### (1) 参与

井上登紀子	東京海上日動火災保険株式会社常務取締役
岩並 秀一	三菱重工業株式会社顧問
坂本 隆	深田サルベージ建設株式会社常務取締役
佐藤 徹	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
中田 薫	国立研究開発法人水産研究・教育機構理事
西村 弓	東京大学大学院総合文化研究科教授
原田 尚美 (主査)	東京大学大気海洋研究所教授
村川 豊	株式会社 N T T データ特別参与

#### (2) 有識者 (五十音順、敬称略)

近藤 逸人	東京海洋大学海事システム工学部門 教授
高木 健	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
中谷 武志	国立研究開発法人海洋研究開発機構研究技術開発部 海洋ロボティクス開発実装グループ グループリーダー代理
藤原 敏文	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所研究統括監
山本 郁夫	長崎大学副学長・教授
吉賀 智司	株式会社 FullDepth 代表取締役社長 CEO

#### (3) 関係府省庁

内閣府 (総合海洋政策推進事務局、科学技術・イノベーション推進事務局)、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、防衛省 等

## 5 . スケジュール

令和 4 年度に、AUV の国産化・産業化に関する現状の情報共有と、戦略策定に必要な課題や論点を明確化し、官民プラットフォームの設置を含めた、AUV 戦略の取りまとめの方向性について検討を行う。検討事項は次のとおりであり、結果を中間とりまとめとして参与会議に報告する。

- ・ 第 1 回：本 PT の目的・趣旨および進め方について、関連する動向について
- ・ 第 2 回：民間やアカデミアの取組状況について、中間とりまとめの骨子案について
- ・ 第 3 回：中間とりまとめについて

令和 5 年度には、中間とりまとめで示された方向性をもとに以下の内容について議論を行い、PT 報告書（AUV 戦略素案）を取りまとめる。

- ・ 第 4 回：官民プラットフォーム経過報告、将来ビジョン・ロードマップ、技術マップについて
- ・ 第 5 回：官民プラットフォームからの提言について、PT 報告書骨子案について
- ・ 第 6 回：PT 報告書（AUV 戦略素案）とりまとめについて

以 上